

高石市が抱える4つの課題に対し 畑中政昭がみんなの声を紡いで創り出した政策提案

未来への挑戦。

■ 徹底的なマーケティング分析

まずもって**高石の何が原因で人口が減少しているのかを緻密に分析すべき**です。

「物件数が圧倒的に少ない」「子育てサービスが乏しい」など考えられる様々な理由を分析し、傾向と対策を練る必要があります。千葉県の流山市はマーケティングリサーチとそれによる人口増の戦略により、特色のない自治体だったのが30代の人口が急増するぐらいまで成功させています。

転入出の際に意識調査を行うとか、不動産会社と連携して引っ越しの傾向を探るなど、お金をかけずとも出来ることはたくさんあります。

■ 人口減少対策を担えるセクションを

「多くの人に高石に住んでもらおう」ということを戦略的に考え、実践する部署は存在しません。かろうじて考えている課はあるのですが、他の業務が多すぎて専念できる状態にはありません。

人口増にむけて取り組むならば、一つの専門的なセクションが中心となり、**子育て支援を充実させるための福祉部、開発指導要綱の緩和、空き家を利活用させるための土木部、巧みな情報戦略を練る政策推進部**などに素早く情報伝達させねばなりません。

いずれにせよ、高石市の人口減少具合に対して危機感が薄いと感じさせられる場面を多く見てきました。もっと本気に取り組んでもらうよう警鐘を鳴らし続けます。

人口減少問題

■ まずは「声を聞きたい」という姿勢を示すことから

「市民の声提案箱」に投書しても全然返事が返ってこないという苦情や、パブコメを募集する案内が届いたのが期限の直前だったとか、**高石市役所は市民の声を聞くという姿勢がなっていない**と言われても否定できません。

面積や人口規模が大きい街は市民の参加意識が低くなってしまいう傾向にあります。高石は市民の叡智やアイデアを集めてこそコンパクトという長所が活かされます。

まずは既存の市民参画制度をキチンと運用し、「あなたの声を聞きたい」という姿勢を示すことから再スタートするべきです。

■ クレームをアドバイスに

悪質クレーマーが役所の窓口でかなり立てているケースもあります。その所為か、**生産的な意見から少しばかりの苦情まで「クレーム」と位置付けてしまい、「なんとかこの場をやり過ごす」という態度で接遇してしまっています。**

実際、門前払いされた方と後日お会いした際、クレームどころか本当にありがたい意見だったという事例がたくさんありました。

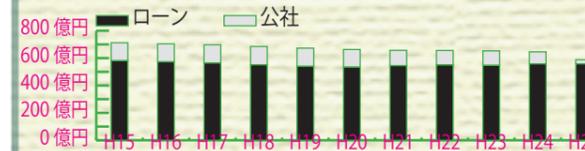
そもそもクレーム対応というのは、苦情を処理することが目的ではなく、その向こうの市民満足度を高めることが本筋であるべきです。クレームをとおしてアドバイスに転換させるスキルを磨くことが肝要であり、そんな研修の必要性を訴えていきたいと考えます。

役所体制の問題

■ まだまだ油断できない財政状況

下のグラフのように借金全体額はおおむね順調に減って行ってます。とくに公社の「借金を借金して返している負債」が無くなったのは大きな功績といえます。

しかし、ローン返済額が依然として多い高石市。こんな時だからこそ、**議員は市民受けのいいポピュリズムに浸った政策提案をせず**に「無い袖は振れない」ということを肝に銘じなければ、結果的に未来にツケを回すことになってしまいます。



■ 公共施設の計画的な維持管理を

「ハコモノは建てたら建てっぱなし」といわれる原因は、公共施設の耐用年数をまとめたものと、維持計画が作られていないところにあると考えます。

マンションなら大規模修繕に向けて住民が積立しているにも関わらず、公共施設は全く手を付けていません。

施設が老朽すれば、未来に必ず必要になる費用なのに、積立どころか修繕する時期、費用などの目算も立てていないのは、未来に責任をもった運営とはいえません。

いざとなった時に「修繕のお金がないから統廃合します」なんて理屈は当然通じません。未来の高石市民に任せっぱなしにするのではなく、今の内からファシリティマネジメントと公共施設白書の作成は絶対にやるべきです。

財政問題

■ 在宅療養できる体制づくりを

特養などの施設型給付から在宅療養を推進すべく地域包括ケアシステムの構築が進められてますが、**老老介護などの社会問題が指摘される現在の状況においては安心して在宅介護に転換できる体制**ではありません。そして、施設型給付よりも介護保険を圧迫させない在宅を推進するのであれば、もっとメリットをだすべきです。今のままでは不公平だという意見もよく聞きます。

在宅を推進するのなら、高齢者が安心して家でいれる制度設計を同時並行で思案していくべきです。

■ 介護予防のさらなる推進を

健幸のまちづくりを高石市は進めていますが「健幸づくり」の手法をもっと広げるべきです。例えば、ボランティア。

80歳を超えた元気なお年寄りが草木の剪定をされていたり、公園の掃除をしてくれていたりする現場を拝見して「歩くだけが健康作りじゃない」と改めて実感しました。歩くことも筋トレすることも趣味を持つことも、遣り甲斐は人それぞれ。**高齢者が遣り甲斐を感じることでできる環境づくり**にも注力すべきです。

■ 避難訓練のマンネリ化を防ぐべき

総合避難訓練は年々、様々な試みがなされていますが、一方でマンネリになってしまい、単なるウォーキングと思われないよう注意を払うべきです。

ゲーム性を取り入れた発災対応型避難訓練の導入や職員自体の避難所の開設訓練（形だけの劇場型ではなく実践型として）なども実施していく必要があります。

安全・安心

■ 昭和56年1月15日生(34歳) 高石小、高南中、桃山学院、近畿大学卒。カンボジアでの体験で人生観が一変「自分も国や街のことを知ろう」と思い、合併選挙後、高石の将来に不安を抱き、インターン活動などを経て立候補。
 ■ 〒592-0002高石市羽衣3丁目4-16 / Tel.072-263-0522 / fax0723-50-0857 / gavhattan@hotmail.com ■ <http://hatanakamasaaki.net/>「畑中政昭」で検索してください。
 ■ Facebookでは頻繁に情報発信しています、気軽にお友達申請してください。 ■ 趣味は料理と読書。料理はイタリアンを中心にしており、読書で最近ハマっているのは中国の大河小説「墨攻」。
 ■ 議会ごとに発行してきた「日進月歩」は文章校正からイラストデザインまで自分で作っています。思いを込めたチラシは私の分身です。せめて読み終わってから古紙回収箱に連れて行ってくださると有難いです。

128.5mm

128.5mm